

## おきにいりのむかしばなしをしょうかいしよう

中心学習材 「むかしばなしがいっぱい」(光村図書 1 年下)

〈付けたい力〉

- ◎興味のある昔話を選んで読む力(読力)
- 昔話を聞いたり読んだりして、面白さに気付く力  
(伝(1)ア(ア))

〈単元を貫く言語活動〉  
昔話を読んで紹介する。

〈主体的な思考・判断・表現を促す手立て〉

- ・第 1 次で、図書ボランティアによる昔話の読み聞かせ会や昔話マップで昔話を探す活動を通して、様々な昔話を想起することで興味を喚起するとともに、昔話を読んで図書ボランティアに紹介するという目的意識や相手意識をもてるようにする。
- ・第 2 次で、全員で 1 冊の昔話の読み聞かせを聞き、自分が好きなところとそのわけをペアで話すことを通して、日本の昔話ならではの面白さに気づき、好きなところと好きなわけを記入した紹介カードを作ることができるようにする。

### 1 子どもと単元について

#### (1) 子どもの実態

子どもたちは読書が好きな子が多く、学級文庫やブックトラックの本を手にとったり、図書室に毎日のように足を運んだりして、本に親しんでいる。子どもたちの読書傾向としては、現代的な児童書や恐竜・生き物の図鑑のような本を選ぶ割合が高く、昔話を選んで読む割合は低い。また、幼稚園や保育園で、代表的な昔話の読み聞かせを聞いたりビデオを見たりした経験はあるものの、その後、継続して昔話に親しんでいる子どもはほとんどいない。そこで、本単元では、日本ならではの昔話を聞いたり読んだりすることを通して、その面白さに親しませていきたい。

#### (2) 学習材について

中心学習材「むかしばなしがいっぱい」は、日本と外国の昔話を紹介する昔話マップ、読書記録の例、昔話の楽しみ方で構成されている。昔話マップにより子どもたちを昔話の世界に誘い、たくさんの昔話を想起させ、読みたい話を探していくことが期待できる。本単元では、日本の昔話を中心に扱う。これにより、日本の昔話独特の語り口調や言い回し・話の展開の面白さに気づき、より一層昔話への親しみを感じることができるとともに、読書の世界を広げて多読の力を身に付けることも期待できる。

以上のことから、たくさんの昔話の中から、自分が興味をもった昔話を選んで読み紹介するという力を身に付けるために適した学習材であると考えられる。

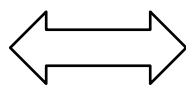
#### (3) 言語活動の特徴と系統

本単元では、「昔話を読んで紹介する」ことを、単元を貫く言語活動として設定する。以下の特徴を通して、付けたい力の確実な育成を図る。

〈紹介の表現要素〉

〈読みの観点〉

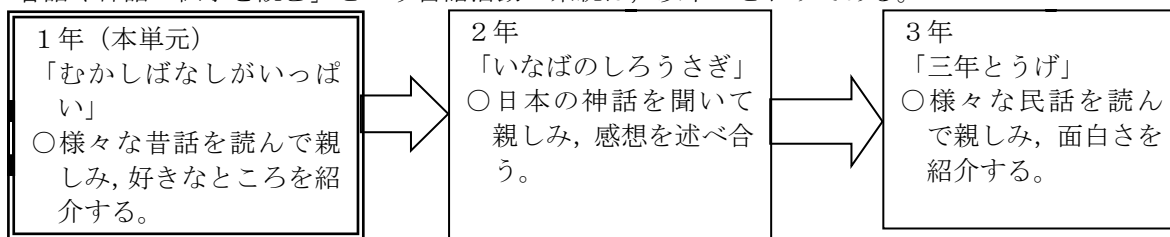
- ・本の題名
- ・登場人物
- ・好きなところと好きなわけ



〈選書の観点〉

- 題名
- 表紙絵や挿絵

「昔話や神話・伝承を読む」という言語活動の系統は、以下のとおりである。



#### (4) 指導に当たって

指導に当たっては、次の三つのことを大切にします。

一つ目は、「昔話を読んで紹介する」という言語活動に対する目的意識をもって、単元の学習に取り組めるようにすることです。そのために、単元の導入時に図書ボランティアによる昔話の読み聞かせ会を設定します。様々な昔話の読み聞かせを聞き、昔話への扉を開けてもらうことで、もっとたくさんあるという昔話を読み、読み聞かせをしてくれたお礼に図書ボランティアに紹介しようという課題意識につなげていきたい。

二つ目は、お気に入りの昔話を紹介するために、紹介カードを書く活動の設定です。紹介カードには、題名や登場人物・好きなどころや好きなわけを記入します。昔話の紹介自体が初めての経験であるので、第2次では、同じ昔話の読み聞かせを聞いて紹介カードを書く。これを生かして、第3次では、自分のお気に入りの昔話について紹介カードを書き、図書ボランティアに紹介をする。どんな昔話をどんな理由で気に入ったのか互いに聞き合ったり、図書ボランティアから感想をもらったりする活動を通して、さらに昔話の世界を広げる発展読書へとつながるものと考えます。

三つ目は、読んだ本を紹介することを意識した並行読書の設定です。並行読書により、読書の世界を広げ多読に結び付けたい。そのために、昔話を読む度に記入する読書カードを用います。読書カードは、読む度に貯まっていくタイプとし、1年生の子どもたちが楽しみながら取り組めるようにします。また、たくさん並行読書をした中から、お気に入りの本を決めて紹介する際は、貯めた読書カードを手掛かりに、お気に入りの1冊を選び出すことができます。さらに、単元の振り返りでは、そのカードを自ら分類することで、昔話のジャンルに気付いたり、たくさんのお話を読んで充実感を味わったりさせたい。

これらを通して、日本の昔話ならではの面白さに気づき、興味をもった昔話を選んで読む力を高めていきたい。

## 2 単元の指導目標

- 昔話を楽しみ、自分の読みたい本を進んで探して読もうとする。 【関心・意欲・態度】
- ◎興味をもったり紹介したいと思ったりした昔話を、選んで読むことができる。 【読むこと カ】
- 昔話の読み聞かせを聞いたり、昔話の好きなどころを見つけて紹介したりすることができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ア(ア)】

## 3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○昔話の内容や語り口調・言い回しの面白さを楽しみ、興味をもって昔話を聞いたり読んだりしようとしている。	◎興味をもったり紹介したいと思ったりしながら昔話を選んで読み、読書カードに記録している。	○日本の昔話ならではの面白さの中から、自分が好きなどころを見付け出し、紹介カードに記入している。

4 学習指導計画（全5時間）

【主な段階】

【主な学習活動】

【主な手立て】

第1次  
単元の学習について、課題意識と見通しをもつ。  
(2時間)

- ①図書ボランティアによる日本の昔話の読み聞かせを聞き、単元の学習の見通しをもつ。
- ②昔話マップで昔話を探しながら、様々な昔話があることに気付くとともに、読書カードの記録の仕方を知る。

図書ボランティアによる昔話の読み聞かせや昔話マップで昔話を探す活動を通して、図書ボランティアに対して、読んだ昔話を紹介するために読書をするという、相手意識や目的意識をもてるようにする。

<評価> \_\_\_\_\_

- ①日本昔話お話をきっかけに、昔話の本を読み、図書ボランティアに紹介するという単元の見通しをもとうとしている。《発言・ワークシート》
- ②昔話マップで昔話を探すことで様々な昔話があることに付き、読書カードの記録の仕方を理解して記録している。《読書カード・読書の様子》

並  
行  
読  
書

第2次  
「ねずみのすもう」の読み聞かせを聞き、紹介カードを書く。  
(1時間)

- ③「ねずみのすもう」の読み聞かせを聞き、題名や登場人物・好きなどころや好きなわけを記入して紹介カードを作る。(本時)

「ねずみのすもう」の読み聞かせを聞き、好きなどころと好きなわけをペアで話すことを通して、日本の昔話ならではの面白さに気付き、紹介カードを作ることができる。

<評価> \_\_\_\_\_

- ③「ねずみのすもう」の読み聞かせを聞き、題名や登場人物・好きなどころや好きなわけを記入して、紹介カードを作っている。《紹介カード》

第3次  
お気に入りの昔話を紹介する。  
(2時間)

- ④読んだ昔話の中からお気に入りの1冊を選び、紹介カードを作る。
- ⑤紹介カードを使って自分の選んだ昔話の紹介を行い、単元の学習を振り返る。

図書ボランティアに本の紹介をし、感想をもらうことによって、身に付いた力を実感し、活用意識を高めるようにする。

<評価> \_\_\_\_\_

- ④お気に入りの昔話を選び、題名・登場人物・好きなどころや好きなわけを記入して、紹介カードを作っている。《紹介カード》
- ⑤・紹介カードを使い、お気に入りの昔話の紹介をしている。《紹介の様子・ワークシート》
- ・昔話を紹介する力が付いたことを実感している。《発言・ワークシート》
- ・読書カードを自分なりに分類することで、充実感を味わっている。《観察・ワークシート》

発  
展  
読  
書

【日常活用場面】  
○自分で日本や世界の昔話を選び、読書を楽しむ。  
(日常の読書)

5 本時の指導（3／5時）

(1) ねらい

「ねずみのすもう」の読み聞かせを聞き、紹介のポイントに沿って紹介カードを書くことができる。

(2) 展開

学習活動	思考を促す発問や指示 (◎) と 反応例 (・), 学習内容	指導の手立て (○) と評価
<p>1 前時の学習を想起する。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     「ねずみのすもう」のしょうかいカードをかこう。                 </div>		<p>○読書カードの進み具合を紹介し、前時までの学習を想起する。</p> <p>○本時の学習活動に興味をもつことができるように「ねずみのすもう」の本を提示する。</p> <p>○読み聞かせ後に紹介カードを書くことを知らせることで、目的意識をもって学習に取り組めるようにする。</p>
<p>3 紹介カードの表現要素を確認する。</p> <p>4 「ねずみのすもう」の読み聞かせを聞き、紹介カードを書く。</p> <p>(1) 「ねずみのすもう」の1回目の読み聞かせを聞き、全体で題名と登場人物を確認し、紹介カードに記入する。</p> <p>(2) 「ねずみのすもう」の2回目の読み聞かせを聞き、好きなところと好きなわけをペアで話してみる。</p> <p>(3) 好きなところと好きなわけを、自分で紹介カードに記入する。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【しょうかいのポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だいまい</li> <li>・とうじょうじんぶつ</li> <li>・すきなところとすきなわけ</li> </ul> </div> <p>◎読み聞かせを聞いて「ねずみのすもう」の題名と登場人物を発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題名は「ねずみのすもう」です。</li> <li>・登場人物は、おじいさん、おばあさん、やせたねずみ、長者のねずみです。</li> </ul> <p>◎「ねずみのすもう」の好きなところと好きなわけを、隣同士で話してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなところは、やせたねずみのために、おじいさんとおばあさんが餅をついたところです。貧乏なのに、優しいなあと思ったからです。</li> <li>・好きなところは、二匹のねずみが赤いふんどしをしめてすもうをとるところです。かわいいなあと思ったからです。</li> </ul> <p>◎紹介カードの「好きなところと好きなわけ」を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記入ができた子どもは、ワークスペースのテーブルで、相手を変えながら紹介し合う。</li> </ul>	<p>○初めて聞く子どものために、読み聞かせは2回に分けて行う。</p> <p>○読み聞かせを聞く観点（読み聞かせ後に登場人物を確認すること）を与えてから、読み聞かせを行う。</p> <p>○1回目の読み聞かせを聞いた後、題名と登場人物を一緒に記入する。</p> <p>○挿絵を使って、だいたいの話の筋を確認する。</p> <p>○2回目の読み聞かせでは、好きなところと好きなわけを探すことを知らせてから読み聞かせる。</p> <p>○読み聞かせ後に、板書を使って、自分の好きなところを確かめる。</p> <p>○好きなところと好きなわけをペアで話させることで、次に自分でカードに記入することを明らかにできるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>《評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなところとそのわけを明らかにしながら、紹介のポイントに沿って紹介カードを書いている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">《紹介カード》</p> </div> <p>○自力で書くことが難しい子どもには、一緒に本を見直したり板書を確認したりして、支援する。</p>
<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>6 次時の学習を確認する。</p>		<p>○本時の学習について、紹介のポイントに沿って印をつけたり記述をしたりすることで、自己評価につなげる。</p> <p>○次時は、お気に入りの昔話で紹介カードを作ることを確認する。</p>